

**令和7年度  
広島平和記念式典派遣事業  
報告書**



■ 令和 7 年度広島平和記念式典派遣事業 派遣者名簿

| No. | 学校・学年       | 氏 名                  |
|-----|-------------|----------------------|
| 1   | 南那須中学校 3 年  | かわた こうせい<br>川田 鳳惺    |
| 2   | 南那須中学校 3 年  | おの でら<br>小野寺 あさみ     |
| 3   | 南那須中学校 3 年  | きくち さやか<br>菊地 紗花     |
| 4   | 南那須中学校 3 年  | こまつ ここみ<br>小松 心夢     |
| 5   | 烏山中学校 3 年   | ふじた わたる<br>藤田 亘      |
| 6   | 烏山中学校 3 年   | さとう なぎさ<br>佐藤 凧紗     |
| 7   | 烏山中学校 3 年   | なかむら ま ゆ と<br>中村 眞優斗 |
| -   | 随行（烏山中学校教諭） | やしろ さ ち こ<br>屋代 佐知子  |
| -   | 随行（学校教育課職員） | すずき たつや<br>鈴木 達也     |

## 非核平和の市宣言（平成 18 年 12 月 5 日）

核兵器をなくし恒久平和を実現することは、人類共通の願いである。

世界で唯一の被爆国であるわが国は、これを世界に強く訴えていかなければならない。

私たち那須烏山市民は、歴史と伝統に恵まれてきたこの美しい郷土を守り、平和な世界を実現するため、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を求めて、ここに「非核平和の市」を宣言する。

## ①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

原爆ドームは写真で見るとは全く違う迫力の凄さに圧倒されました。付近には多くの人がいましたが、誰一人としていざりすることなく、真剣に向き合っているのが感じられました。原爆ドームは昔、広島県産業奨励館と言われ、多くの人に親しまれていましたが、今はその面影はなく、壁やカギの一つ一つが原子爆弾の恐ろしさを物語っていました。平和記念資料館には、被爆者の服や靴など、多くの物や写真、絵がたくさんありました。いざりなような物がたくさんありましたが、被爆した方が約14万人もいるという事実には胸が締め付けられました。青少年平和文化イベントには、多くの人が参加しており、平和について考える貴重な機会となりました。

## ②広島平和記念式典に参列して感じたこと

中学生や外国の方など、多くの方々が参列していました。いざ式典が始まると、一瞬にして静まり、虫の鳴き声しか聞こえなくなるほどでした。参列する方々が平和へ真剣に向き合っているのが感じられました。僕は平和宣言や、平和の誓いなどを聞いて、祈ることは誰でもできるけれど、唯一被爆した国である日本だからこそできることがあるのではないかと思います。これまで平和について深く考えたことはありませんでした。実際に参列して、平和とはどういうことなのか、どういった状況なのかなどを改めて考えるきっかけになりました。

## ③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

これまで僕は、多くの人に支えてもらいながら、特に不自由を感じることなく過ごしてきました。そのため、平和について深く考えることはありませんでした。しかし、今回の派遣事業に参加させていただいた事で、原子爆弾の恐ろしさや、多くの人が同じあやまちを繰り返さないよう取り組んでいることを学ばせていただきました。原子爆弾は素早く家族と暮らしている日常を一瞬で奪ってしまいます。だからこそ、原子爆弾が一瞬も早くこの世界からなくなると強く願います。現在はインターネット、SNSなど、世界中で使われています。そのようなものを活用し、世界に原子爆弾の威力や平和の大切さを発信し、原子爆弾のない未来を目指していきたく思います。

南那須 中学校3年 氏名 小野寺 あさみ

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

原爆ドームは、くずれ落ちたレインガでもがそのままになっていて、当時の状況の悲惨さを感じられました。ビルのたち並ぶ街の中で、原爆ドームは「あすれてはならない」ということをうたえているように思えました。

平和記念資料館は、衝撃的な資料がたくさん展示されていて、原爆のおそろしさを感じました。遺品と、故人の顔写真、遺族の証言が展示されているところでは、遺品を身につけていた人の苦しみ、見つけた遺族の声がかんじえてくるようで、胸が締めつけられました。

全国でも平和サミットでは被爆者のお話を聴くことができました。命が失われるのを身近で見ると、お話しには深い悲しみがこもっていました。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

平和記念式典には、とてもたくさんの方が参列していました。式典の運営にも、たくさんの方が携わっていて、中には私たちくらいの子どももいました。この式典にこんなにも多くの方が関心を持って、みんなが平和を願っているのだと思うと感動しました。

広島県知事のあいさつにあった「国守りて山河なし」の例えが、とても心に残りました。今まで、核抑止力はいかにないと考えていた部分がありました。それはちがうということに気づかされました。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

平和は決して遠いものではなく、私たち一人一人がうつっていくものだということを伝えたいです。そして、誰も戦争や核兵器におびえることなく、安心して生活できる世界になってほしいです。

これから、原爆の恐ろしさをより多くの人に伝えていきたいです。

また、広島には外国からも多くの方が来ていました。他の国の文化や歴史、言語を学び、いろいろな人と交流していきたいです。

南那須 中学校3年 氏名 菊地 紗花

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

原爆ドーム：・80年前のものが今まで残っていて、戦争の悲惨さを伝えてくれる建物だと改めて感じた。  
・修復工事をしたところとしていないところの差がよく分かった。

平和記念資料館：・被爆者の方の写真や、飾られている服や日記など本当にこの世で戦争が起きていたという事が再確認できた。

平和記念イベント：・さまざまな県の方の発表を聞いて、自分がした今回のような貴重な体験を他の人にも伝えていきたいと思った。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

・さまざまな県の人たちや、国の方々などが参列されていて戦争へ向けている気持ちや一体感を感じて式典中も、静かな空気感が保たれていてよかった。

・平和は行動にうつさないと実現しないと思った。

・来賓の方々の話などを聞いて戦争の話は今後も継承し続けていかなければならない事実だと感じた。

・被爆者の方が高齢化していく中で、若い世代につなげていくため、このような貴重な体験をした私達自身も語りついでいくことが重要だと思った。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

・戦争は二度としてはいけなと改めて思った。

・今、カサ地区やウクライナなどで起きている戦争や紛争を止め、未来ある子供たちの命を大切にしていきたい。

・文化祭で記念式典の発表の時間を設けて頂いている為、どれだけ悲惨な出来事だったのか、なぜ二度と起こしてはいけないのかを全校生徒に伝えるような発表をし、興味を持ってもらえるようにしていきたい。

東郷 真

中学校3年

氏名

小松 い夢

## ①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

原爆ドームを見て、写真で見たものよりも色あせていて  
たくさんの方の放射線と、80年もの日々をあひたことを実感した。  
平和記念資料館では、現代の社会を歩いている私には想像で  
きないものがありました。当時の被爆の様子や、  
被爆者の話、診療書などがあり、診療書には「原爆症」と初めて使  
われる病名がはかれていました。当時の大変さがよく伝わり、てきま  
した。文化イベントで、各地の方の団体の発表と、被爆者である榎矢 大  
昭さんの被爆体験を聞き、発表を聞いた時には、平和のために  
できる最大限のことを本気で考えているのが伝わりました。

## ②広島平和記念式典に参列して感じたこと

会場につく周りを見渡すと、たくさんの方の学生、外国人、各国の  
代表の方々、遺族が参列しており、全員が平和を願っている  
のが身に染みて伝わりました。一番心に残ったのは子ども代表  
の平和への誓いです。目つきや声の張り方が誰よりも強く、  
2人の言葉に心をうたれました。

たくさんの方の平和への願いを聞くことができて、これからの  
生活を自信をもって良いものと言えるために工夫したいと  
感じました。

## ③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

第二次世界大戦がおわり、80年がたった今でも、世界では  
紛争がおきています。戦争の辛さを、私自身からしっかりと理解し、  
たくさんの方に伝えていきたいです。

世界中の人が仲良く暮らし、戦争や暴力がなくなり、小さな思い  
やりで平和が広がっていくことを願っています。

今回の体験を無駄にせず、いろいろなことを世界に発信してい  
きたいです。

鳥山

中学校3年

氏名

藤田 亘

## ①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

私は広島で原爆ドームや平和記念資料館の見学や青少年平和文化イベントへの参加など多くの貴重な体験をさせていただきました。平和記念資料館で見た被爆者の痛々しい姿の写真や、鉄骨がむき出しになり、外壁が崩れ落ちた原爆ドームの姿は、私に原爆の投下がいかに悲惨なものであったのかを伝えてくれました。また、青少年平和文化イベントでは、全国の学生が、平和のためにどのような取り組みを行っているのかなど多くのことができ、自分の平和についての考え方や取り組み方を考え直すきっかけにもなりました。

## ②広島平和記念式典に参列して感じたこと

私は広島平和記念式典に参加し、青空で厳かな雰囲気の中、原爆の投下で亡くなった方々の御霊に祈りを捧げました。また、その後行われた、広島市内の小中学生による平和への誓いや、内閣総理大臣や広島県知事などによる挨拶を聞く中で、今を生きる私達が核廃絶や戦争のない世界をつくるために取り組んでいくことがいかに重要であるか心の底から実感することができました。この式典に参加し、感じたことを決して忘れず、いつまでも心の中に秘めておきたいと思います。

## ③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

私は核なき、戦争なき世界をつくるためには、個々の平和に対する意識を高めていくことが重要であると思います。特に、これからの未来を担っていく存在である私達のような中学生などの若い世代がこれからのことについて自分で考え、自分の意見を持つことが何よりも求められていることだと思います。そのため、私は市の代表としてこの派遣事業で学んだこと、感じたことを、多くの市民の方、特に自分と同じ世代に伝え、市全体としての平和に対する意識を高め、核なき戦争なき世界をつくるための第一歩を踏み出せるようにしていきたいです。

鳥山 中学校3年 氏名 佐藤 風紗

## ①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

テレビや写真で見ると、実際に自分の目で見るのとでは感じ方が違った。原爆ドームや資料館に展示されていた服や弁当箱からは、当時の被害の大きさがよく分かり、胸が締め付けられるようだった。被爆し、けがを負った人々の写真からは悲慘が伝わってきて、思わず目をつむりたくなるほどだった。実際に被爆した梶矢さんのお話を聞いて、原爆の悲慘がより鮮明に伝わってきた。また、日本各地で平和への取り組みを行っていることを知れた。

## ②広島平和記念式典に参列して感じたこと

平和宣言の中で、「自国を守るためには、核兵器の保有もやむを得ない」という考え方が強まりつつあると言っていた。でも、それはお互いに傷つけ合うだけだと思う。日本だけが核兵器廃絶を叫びつづけるのでは意味がないと思う。また、平和への誓いでは思いやりの心が大切と言っていた。本当にその通りだと思う。平和宣言でも平和への誓いでも、自分で行動することが大切だという話があった。式典をとおして、自分が何をすべきかが分かったと思う。

## ③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

世界から核兵器がなくなり、戦争のない平和な世界になってほしいと思う。そのためには、一人一人が戦争に関心を持ち、事実を知ることが必要だと思う。私は、今回の派遣事業で学んだことを家族や友人、後世に伝えていきたい。そして、もう二度と悲劇を繰り返さないために、自分にできることを精一杯やっていきたい。

## ①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

原爆ドームを実際に見たとき、写真で見たものとは雰囲気が違うと思いました、大きく崩れた建物や白く風化したレンガなどを見て、原爆の被害や出来事が風化していることを感じました。また、ボランティアガイドさんの話を聞くことで当時の様子が想像でき、平和の大切さを改めて考えられました。

平和記念資料館では、実際に被爆した人や物、広島の様子などを見ました。事前に原爆や広島について学んでいたよりも、実際の被害は悲惨なものでした。原爆についての知識や恐ろしさを体感することができました。

青少年平和文化イベントで、梶矢 久昭さんの話を聞きました。原爆が投下されたときの広島や人々、梶矢さんの心情などを詳しく知ることができ、被爆後の悲惨な状況が想像できました。

## ②広島平和記念式典に参列して感じたこと

自分が想像していたよりも多くの国の人々が参列していて、世界全体で平和へと向かっているように感じました。平和記念式典で特に印象に残ったのが「自分よりも他人の立場を優先する」という言葉です。お互いにゆずりあいをすることで、武力によって解決するのではなく、対話によって物事を解決できると考えました。

また、平和宣言や平和への誓いで、平和について考えるだけでなく、様々な人に伝える大切さを改めて実感しました。

## ③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

原爆が投下されてから80年が経過しても、いまだに苦しんでいる人々がいいます。また、当時被爆した人も、年々減少しています。その中で、僕たちのような若い世代の人たちが平和に関心を持ち、後の世代へ伝えていくことで、世界平和に近づくと 생각합니다。しかし、平和への取り組みを続ける人がいる一方、関心がない人もいます。そのような人を減らすために、まずは自分から実際に体験したことや考えたことを伝え、平和に対する意識を上げていきたいと思っています。